

言語文化学部・国際社会学部・国際日本学部
2026年度前期日程入学試験問題
地理歴史（歴史総合、世界史探究）
正解・配点・解答例（150点満点）

歴史総合〔60点〕

- 問1 民本主義〔5点〕
問2 (e)〔5点〕
問3 カール・マルクス〔5点〕
問4 南満洲鉄道〔5点〕
問5 〔10点〕

【解答例】

戦時には国内での階級対立をやめるべきであり、労働者同士が戦うこともやむを得ない（39字）

- 問6 〔30点〕

【解答例】

女工たちはストライキを通して賃上げなど労働条件の改善だけでなく人間としての尊厳をも求めた。土木・清掃労働者たちの要求も、浴場の設置だけでなく最下層労働者を象徴する半纏の強制に反対するものだった。こういった自主的な民衆運動を伴いながら登場した社会主義思想は貧富の格差などの社会問題の解決を掲げた。しかし第一次世界大戦により多くの社会主義者たちが戦争に協力するなかローザ・ルクセンブルクは帝国主義時代の戦争ではいずれが勝利しても労働者には悪がもたらされると考え、陳独秀も帝国主義的野望を克服できないパリ講和会議に西欧民主主義の限界を見出し、革命的介入や共産党設立によって新たな社会をつくることを目指した。（300字）

世界史探究〔90点〕

- 問1 サン＝ピエトロ大聖堂〔5点〕
問2 始祖鳥〔5点〕
問3 ソロアスター教〔5点〕
問4 突厥〔5点〕
問5 雲崗〔5点〕
問6 ランケ（レオポルト・フォン・ランケ）〔5点〕
問7 シャンポリオン（ジャン＝フランソワ・シャンポリオン）〔5点〕
問8 ユネスコ（国際連合教育科学文化機関 / UNESCO）〔5点〕
問9 ウェストミンスター寺院〔5点〕
問10 マクドナルド（ジェームズ・ラムゼイ・マクドナルド）〔5点〕
問11 〔40点〕

【解答例】

人類は石を権威・信仰・学知・記憶を刻む素材として用いてきた。前6世紀のアケメネス朝ペルシアは広大な支配地域を統治するため、ベヒストゥーン碑文などの碑文を通じて王の高貴な血統と神授の統治権を強調して支配の正当性を示した。16世紀ヨーロッパでは、ローマ教皇の庇護のもと独自の価値を持つ芸術とその制作者である芸術家が生まれ、信仰と結びついた芸術作品がつけられた。サン＝ピエトロ大聖堂などの石造物は教会の荘厳さと威厳の象徴であった。一方、19世紀に入ると近代科学による石を資料とする研究が進んだ。始祖鳥はダーウィンの進化論を裏付け、自然史を時間軸で捉える見方を広めた。またナポレオンのエジプト遠征で発見されたロゼッタ・ストーンの種類文字の対照による解読や、広開土王碑拓本の史料解釈をめぐる議論のように、国家の威信や帝国主義と結びつきながらも石は言語学や歴史学などの学知を支えた。20世紀、第一次世界大戦という総力戦では多くの人々が戦場に動員され、セノタフや無名戦士の墓などの記念碑によって膨大な犠牲者の死が悼まれた。王侯の権威から国民の記憶へと時代とともに意味を変えながら、人類の歴史は石に刻まれ続けている。（500字）